

項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	急性骨髄性白血病に対する CPX351 による治療効果の解析
	研究対象者	2022 年 4 月から 2024 年 3 月の間に高リスク急性骨髄性白血病と診断され同種造血幹細胞移植を実施された方。及び当施設で治療を受けた中で CPX351(ビキセオス)による治療歴がある方。
	研究目的	治りにくい急性骨髄性白血病を治癒に導くには、他人の健康な血液の種を移植する造血幹細胞移植が重要です。移植を成功させるには、事前の抗がん剤治療で可能な限り白血病細胞を減らしておく必要があります。近年、この事前の治療として CPX-351 という新しいお薬が使えるようになりました。本研究の目的は、CPX-351 を使ってから移植を受けた患者さんと、過去に従来の薬で移植を受けた患者さんの治療成績（生存率や再発率など）を比較することです。これにより、新薬が移植後の生存や再発防止にどれほど貢献しているかを明らかにし、今後のより良い治療選択に役立てます。
	研究方法	神奈川県立がんセンターのみで実施される診療録および診療科データベースを用いた後方視的データベース研究。診療録やデータベースから、患者データを収集し、統計学的手法により CPX351 登場前後での治療成績の変化や、寄与する要素について検討します。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西 暦 2 0 2 6 年 8 月 2 4 日 ～ 西 暦 2 0 2 9 年 3 月 3 1 日
利用又は提供を開始する時期		[☒] 総長が研究実施を許可した日 [☐] 西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目(チェック[X]が入った項目を利用します)	[☐] 試料:	[☐] 血漿、[☐] 血清、[☐] 全血、[☐] 末梢血から抽出した DNA、 [☐] 病理検体(具体的に記載:_____)、 [☐] 尿、[☐] 糞便、[☐] 唾液、[☐] 胸水、[☐] 腹水、[☐] 脳脊髄液、 [☐] 毛髪、[☐] その他(具体的に記載:_____)
	[X] 情報:	[X] 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[X] 年齢、[☐] 生年月日、[X] 性別、[X] 既往歴、[X] 併存疾患、[X] 外来日・入院日・退院日、[X] 臨床検査値、[X] 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[X] 臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、[X] ゲノムデータ、[X] 看護記録、[☐] その他(具体的に記載:_____)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	所属・氏名 血液腫瘍内科 芳野祐一
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口		神奈川県立がんセンター 血液腫瘍内科 芳野祐一 045(520)2222(代) 利用停止のお申し出は 2027 年 02 月 28 日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります